

22. Tl-201 心筋シンチグラフィにおいて絶対値の洗い出し率は有用か中嶋 憲一他...521
 23. 脳血管障害における ^{99m}Tc -HM-PAO による脳血流像寺田 一志他...521
 24. ^{99m}Tc -HM-PAO による定量的脳血流測定大場 洋他...522
 25. 失語症における脳血流イメージング所見の検討仙田 宏平他...522
 26. 幻聴症における ^{123}I -IMP の有用性松田 博史他...522
 27. 機能的な精神疾患における局所脳血流分布パターン関 宏恭他...522
 28. CT で低吸収域を呈した部位に ^{123}I -IMP にて興味ある再分布を認めた
 左頸動脈閉塞症の1例外山 宏他...523

一般演題

1. Total-HBc 抗体 RIA キット (AB-COREK) の基礎的検討

金森 勇雄 川上 文浩 奥村 恭巳
 疋田 稔 樋口ちづ子 馬場 健碩
 (大垣市民病院・放)
 中野 哲 武田 功 小沢 洋
 熊田 卓 杉山 恵一 (同・消化器科)
 佐々木常雄 (名大・医短)

今回われわれは Sorin biomedica 社の Total-HBc 抗体 RIA キットの基礎的検討を行った。

従来の CORAB RIA キットと対比してみると、再現性・回収率等もほぼ同様な値を示し、両者の相関係数も $r=0.985$ と優れた相関関係を示した。しかし、希釈曲線はバラツキがみられ、CORAB キットと同様に定量性は劣ると考えられ、今後の改善が強く望まれる。

したがって、本法は検出感度には優れるが、定量性に安定を欠き、定性的キットであると言える。よって、本法を臨床的に応用するには、これらの基礎的検討から限界を知って利用されることが必要であろう。

2. Coated Tube RIA TSH による高感度 TSH 測定法の検討

信田 憲行 (三重大・中放)
 中川 毅 松岡洋一郎 松村 要
 山口 信夫 (同・放)

トラベノール社の高感度 TSH 測定キット Coated Tube RIA について検討を行った。標準曲線から求めた

最高検出感度は $0.04 \mu\text{U/ml}$ であった。Pool 血清による再現性は intra-assay C.V. $5\sim 7\%$, interassay で $10\sim 17\%$ であり、希釈試験もほぼ良好であったが、症例により期待値よりもやや高値を示す例があった。TSH キット第一との相関は 64 例で相関係数 0.987 , $y=0.634x-0.063$ (x : 第一, y : トラベノール) であった。

正常人は 20 例で平均値 1.57 標準偏差 1.00 で対数変換後、平均値 $\pm 2\text{S.D.}$ は、 $0.4\sim 4.4 \mu\text{U/ml}$ であった。未治療の甲状腺機能亢進症は全例 $0.125 \mu\text{U/ml}$ 以下で、正常と区別された。Free T_4 と TSH の間には双曲線の関係が得られたが、Free T_4 正常域の例に TSH が異常値を示す例があり鋭敏な甲状腺機能の指標となると期待された。

3. シンチレーション位置検出改善のシミュレーション

小島 一彦 越田 吉郎 (金沢大・医短)
 久田 欣一 (同・核)

小型シンチレーション検出器の分解能向上を目的に γ 線の位置検出を補償する方法について検討した。 γ 線の位置検出精度は γ 線によるシンチレータ発光をサンプル点に配置したホトマルが効率よく検出し、その信号を用いて位置計算するため、サンプル点と検出効率に依存する。ここでは 6 角配列がサンプル間隔を大きくできるのでシミュレーションに用い、ホトマル数を増加しないで補間点を想定し、その点を用いて位置補正を加えた。なお、このコンピュータシミュレーションにもとづき、5 in 直径の NaI シンチレータを用いて、1 cm 角の光ガイドを用いホトマルとの組み合わせが任意にできる実験装置を一部作成した。今後、さらに実験的検討と改善を加える。